

二〇一九年度

大妻中野中学校

第二回アドバンスト入試

問題用紙

(二月一日午後)

国

語

座 席 番 号
番

受 験 番 号
番
氏 名

受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて13ページあります。
- (二) 試験開始後ただちにページ数を確認してください。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに座席番号と受験番号と氏名を記入してください。座席番号と受験番号は算用数字で記入してください。
- (四) 試験時間は五十分です。
- (五) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (六) この試験は百点満点です。

□ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。なお、作問の都合上、本文には一部省略されている部分があります。

主人公「わたし（ハルさん）」は、職場の同僚である「柚原さん」、「大西くん」と一緒に、同じく同僚で、町の活版印刷店「三日月堂」の娘でもある「弓子さん」をお願いして、今は営業していない「三日月堂」に入る。

「これは……」

三日月堂にはいるなり、大西くんが声をあげた。そのまま立ち尽くし、ぽかんとまわりを見回している。

「すごい」

柚原さんが息をもらす。三日月堂は変わっていなかった。扉をあけると向かい側にすぐ活字の棚。壁は四方すべて活字のはいつた棚で覆われている。鴨居の上、天井ぎりぎりまですべて棚で、ぎつしり活字が詰まっている。そして、大きな歯車のついた、自家用車くらいの大きさの印刷機……。

「これ、印刷機ですよ？ 動くんですか？」

大西くんが弓子さんに訊いた。

「動くと思います。五年前、ここをしまうとき、いちおうちゃんと手入れをしましたし。電気式なので、動かしてみないとわからないですけど」

弓子さんが真つ黒い機械を撫でた。

「手入れ、って、弓子さんが？」

柚原さんが訊いた。

「はい」

弓子さんがうなづく。

「すごい。こんな機械の手入れが、できるんだ」

柚原さんも大西くんも目を丸くする。

「弓子さん、大学時代、よくここで手伝いしてたものね」

「ええ、よくバイトしてました」

「つまり、弓子さんはこの機械を使えるってことですか？」

大西くんが訊いた。

「え、ええ……」

弓子さんがためらいながらうなづく。

「この大きいのは、ひとりで動かしたことがないので……祖父が使うときに手伝ったことはありますが……。でも、あちらの自動機とか、

手キンなら……」

「手キン？」

「あれです」

弓子さんが奥にある機械を指した。うえに円盤がついた、古めかしい機械だ。

「あれだったら、いま印刷できますか？」

「さすがにいますぐは……。ずっと使ってたので、少し調整しないと……」

大西くんの勢いに、弓子さんは少し① たじろいでいる様子だ。

「そうか……。でも、見てみたいなあ」

「きちんとしたものが刷れるかはわかりませんが、動かすくらいはできると思いますよ。完全に手動で、動力もないですから」

「ほんとですか。やった」

大西くんは小さくガッツポーズをした。

「インキはどうだろう」

弓子さんが棚から缶を取り出し、蓋を開ける。へらのようなものをインキに突っ込み、混ぜる。

「これなら……。上の方は固まってますけど、下はまだ使えそうですね」

そして、機械のレバーを下ろしたりあげたりを何度か繰り返した。

「動きますね」

大西くんが機械をのぞきこむ。

「ええ。でも、問題はこのローラーなんですよね」

弓子さんが言った。

「ローラー？」

「ええ。このインキをのばすローラーです。樹脂製なんですけど、②するんです。ひび割れていたりしたら、インキを均一にのばせない」

弓子さんが目を凝らしてローラーを見た。

「見ただけじゃちよつと……わからないですけど」

「じゃあ、印刷してみましようよ」

大西くんが言った。

「そうですね。でも、なにを印刷しますか？」

弓子さんがあたりを見回した。

「レターセットは……？」

柚原さんが言った。

「レターセット？」

「ハルさんには高校三年生の息子さんがいるんですが、卒業祝いになにを贈るか、なかなか決められないみたいで……それで、むかしハルさんがもらった三日月堂製の名入れレターセットの話になって……」

柚原さんがわたしの代わりに答えた。

「ああ、あれは人気商品でした。ハルさんも持ってらしたんですか。使ってくれてた人がいると思うと、なんだかうれしいです」

——そうか。使ってくれてる人がいるんだ。うれしいですねえ。  
はじめて会ったときの弓子さんのお父さんの声を思い出した。

「あのレターセットなら便箋もサイズが小さいですから、この機械で刷れますよ。息子さんのお名前は……？」

「市倉森太郎です」

「あのレターセット用の型はよく使ってたから……」

弓子さんが棚の前に立つ。上から順にのぞきこんでいく。

「ああ、ありました。これが封筒の型ですね」

弓子さんが紐でしばられた金属の塊を差した。

「あとは活字を拾ってここにセットすれば、印刷はできます」

「ほんとですか？ すごい。活字を……拾う……」

大西くんが目を輝かせた。

「でも、どうやって探すの？ 無限にあるように見えるけど……」

柚原さんが棚を見回した。

「文字は全部部首別に画数順に並んでいます。漢和辞典と同じですよ」

弓子さんが言った。

「ええと、まず『市』は、と……」

慣れた様子で棚の前を移動し、活字を抜き出す。

「文字って、ほんとにたくさんあるのねえ」

わたしはため息をついた。

「ここでは文字が『活字』という『もの』として並んでるから、よけいそう感じるのかもしれませんがね」

弓子さんが微笑んだ。ふだん本や新聞や雑誌を見ると、文字はある意味を持って並んでいる。だから、それをひとつひとつ独立した『もの』と意識しない。だけど、ここでは……。

弓子さんが浅い木の箱を手に持ち、棚の前を移動していく。

なぜか、森太郎の名前を考えていたときのことを思い出した。夫といくつも案を出したが、なかなか決まらなかった。意味が気に入っても、見た目があんまりよくないとか、画数が悪いとか……。

でもほんとは、<sup>④</sup>ひとつに決めてしまうのが怖かったのかもしれない。ひとつに決めるということは、ほかの名前を捨てる、ということだ。ほかの可能性を捨て、ひとつの運命を選び取る。それが怖かった。

「活字、そろいましたよ」

弓子さんの声が出た。箱の中に五本の活字がはいっている。一本つまみあげると、『森』という字だった。

<sup>⑤</sup>した。小さな金属の硬い光に、気持ちがしんとする。

「どうかしましたか？」

弓子さんが言った。

「息子の名前が決まったときのことを思い出したの。それまでさんざん悩んで決まらなかったのに『森太郎』っていう案が出たとき、なんだか急に、それがいい、って気がした。夫もわたしもね。それで、これしかない、これでいこう、って」

弓子さんが微笑み、活字を見下ろす。

あのとき、ここにあるほかのすべての文字を捨てて、森太郎って名前を選んだ。生まれてきた子を見たとき、<sup>⑥</sup>ああ、これでよかった、って思った。この名前で合ってた、って。あれほど悩んだのが嘘みたいだった。

弓子さんは拾ってきた活字を順番に並べ、型に入れた。ネジで固定し、印刷機に取り付ける。円盤にインキをのせ、レバーを引く。

「動いた」

大西くんが声をあげた。円盤のうえをローラーが行き来し、インキがのびた。

「じゃあ、刷ってみますね」

弓子さんが棚から紙を出し、印刷機にセットする。ぎゅっとレバーをおろす。ローラーが版につき、紙が押し付けられた。

「あ、刷れた」

大西くんが声をあげる。何回か同じ紙で試したあと、弓子さんが封筒をセットした。

「え、このまま……？」

大西くんが弓子さんを見た。

「ええ。上からハンコみたいに押すので、袋や冊子にも刷れるんです。それも活版印刷のいいところですね」

弓子さんがレバーをおろす。

ところどころかすれているが、封筒に文字が並んでいた。

「すごい。ほんとに刷れてる」

柚原さんも感嘆かんだんの声をあげた。

「でも、やっぱりダメですね。均一に刷れてないし、ところどころかすれてるし……。ローラーのせいですね」

弓子さんは封筒に目を近づけ、まっすぐにしたりかたむけたりした。

「このままじゃ、きれいには刷れないです」

「でも、交換すれば刷れるんですか？」

大西くんが訊きいた。

「……刷れるとは思いますが……」

弓子さんは自信のなさそうな顔だ。

「もしできたら、刷ってほしいの」

わたしは言った。無理を言っているのはわかっていた。だが、文字を見た瞬間、思ったのだ。どうしてもこれを贈りたい、と。

「卒業祝い、やっぱり⑦これを贈りたいと思って。手数がかかるものだから、代金もちゃんと払います。試してみてもらえないかしら」

「やってみて、どうしてもダメだったらあきらめる」

弓子さんはじつと考え込んでいる。

「わかりました。じゃあ、やってみます」

しばらくたってから、弓子さんが言った。

「ほんとに？」

「ただ、準備に少し時間がかかりますし、今日これから、というわけにはいきません。何日か待ってもらってもいいですか？」

「もちろん。よかった。じゃあ、お願いします」

⑧ なんだか心が羽ばたくような気がした。

( 中略 )

水曜日、休みを取っていた弓子さんから、夕方にメッセージがはいった。ローラーが手に入ったから、今日の夜印刷できる、と言う。

仕事が終わってから、大西くんといっしょに三日月堂に行った。柚原さんも誘ったが、今日は葛城かつらぎさんやほかの友人たちと飲みに行く約束をして  
いるらしい。

弓子さんはもう作業をはじめていた。

「あれから機械を調整して、ローラーを変えたら、だいぶよくなってきました」

「ほんとはですか？」

大西くんが印刷機に近寄り、そばに立ってかけられた試し刷りを手に取った。

「ほんとだ。きれいですね」

「でも……」

弓子さんはルーペを使い、活字の印刷をじっと見ている。

「『倉』に少し欠けがありますね。あと、『森』の字が全体に太ってます」

「そうかな？ あんまりよくわからないけど……」

「ルーペを使えばわかりますよ」

弓子さんがルーペを差し出す。拡大して見ると、たしかに弓子さんの言っていた通りのようにも思える。

「けど、そんなに目立たないですよ。少し欠けたり、字にばらつきがあっても、それが味のような気もしますけど……」

大西くんが言った。

「ダメです」

弓子さんが即座に答えた。

「字に傷があつたら、名前にも傷がつきます。それは、よくない。祖父はそう言っていました。名前だけじゃない、どんな言葉でも同じです」

そう言うと、もう一度活字の棚に向かった。

「長いことやってなかったから、こういうこと、すっかり忘れてました」

活字を一本一本見ながら、弓子さんが言う。

「祖父がいたころは……最後に必ず祖父が全部チェックしてくれましたから。いろいろわかってるつもりだったけど、結局お手伝いだったんですよ」

活字を見る目が鋭い。見たことのない顔だった。

何度か活字を入れ替えて試したが、なかなか満足のいくところまでいかないみたいだ。気がつくともう八時を回っていた。だが、どうなるのか気  
になる。もう少し見ていたい。

結局、十時すぎまで三日月堂にいた。弓子さんはまだ少し調整したい、と言う。

「すみません、面倒なことに巻き込んでしまって」

弓子さんが深々と頭をさげる。

「そんなことないわよ。むしろこっちが無理を言ったんだから……。でも、ここまできれいなら、充分だと思うの。自分も手伝ったし、手作りだと思えば……」

「いえ。刷るからには、ちゃんとしたものを刷りたいんです。でないと祖父に叱られます。でも、あとはひとりで行います。わたしは明日は遅番ですから、もう少しがんばります」

弓子さんはきっぱりと言った。

「わかったわ。でも、無理しないでね」

「あ、あとひとつ。インキの色はどうしますか？ 試し刷りは黒でしたが、インキが残ってれば、調色できますから」  
そうだった。三日月堂のレターセットはそこもウリだった。

森太郎はどんな色がいいんだろう。

森

試し刷りの便箋を見直したとき、その字が目飛び込んできた。森。森太郎。森林科学。そうだ、森の色。

「緑。」  
⑩ 緑。⑪ みたいな色でお願いします」

⑪ の色……いいですね」

⑫ 弓子さんは目を閉じ、小さくうなずいた。

(ほしおさなえ 『活版印刷三日月堂く星たちの栞』ポプラ文庫)

問一 —— 線部①「たじろいでいる」の意味として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、驚きすぎて、心臓がはねあがる。

イ、すこしひるんで、しりごみする。

ウ、意外だと感じて、首をかしげる。

エ、恐怖を感じて、逃げ出しかける。



問二 空欄②にあてはまる語句として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、変化    イ、消化    ウ、鈍化    エ、劣化

問三 ——線部③「文字が『活字』という『もの』として並んでる」の説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、文字が、新聞や本に載っているような意味のある「言葉」としてではなく、単なる「物体」として存在しているということ。  
イ、文字が、文章を組み立てるために使う「単語」としてではなく、人に伝えるための「道具」として存在しているということ。  
ウ、文字が、人に使い回されるだけの「道具」としてではなく、それぞれが意志をもった「命」として存在しているということ。  
エ、文字が、それぞれ本来持っている役割をはなれ、全く意味のないただの「記号」として並べられて存在しているということ。

問四 ——線部④「ひとつに決めてしまうのが怖かったのかもしれない」とありますが、それはなぜですか。その理由として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、画数や意味から考えてみると、他の案の方がよいように見えてしまったから。  
イ、生まれてくる子が、自分の名前を嫌がるのではないかと思えてしまったから。  
ウ、生まれてくる子の運命まで決めてしまうように思え、自信が持てなかったから。  
エ、親の責任を名前が押し付けてくるように感じられ、大きな不安を感じたから。

問五 空欄⑤には、音や声、その他さまざまの状態を表現したことばがあてはまります。このときの「わたし」の気持ちの表現として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、ぎくんと    イ、ぞくつと    ウ、もやつと    エ、どきんと

問六 ——線部⑥「ああ、これでよかった」の説明として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、名前をつけることすら出来ないと思っていた子どもを、無事に出産できて、すがすがしい気持ち。  
イ、生まれてきた子どもの雰囲気を考えていた名前に合っていると実感出来て、ひと安心する気持ち。  
ウ、子どもの名前をようやく決めたのだから、これからしっかり向き合おうとたく決意する気持ち。  
エ、産まれるまであれこれ悩んだものの、生まれた子どもを見て、あふれてくる喜びを隠せない気持ち。

問七 ——線部⑦「これ」とは何ですか。本文中の語句を用いて、二十字程度で具体的に説明しなさい。

問八 ——— 線部⑧ 「なんだか心が羽ばたくような気がした」とありますが、このときの「わたし」の気持ちとして最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、息子の輝く将来を夢みる期待感。
- イ、自分の思惑通りに出来る征服感。
- ウ、弓子さんの腕に対する尊敬の念。
- エ、贈り物の完成が楽しみな高揚感。

問九 ——— 線部⑨ 「ちゃんとしたものを刷りたいんです」について、次の問いに答えなさい。

- (1) 「ちゃんとしたもの」とはどんなものですか。本文中の語句を用い、三十字以内で答えなさい。
- (2) 「弓子さん」がこのように言ったのはなぜですか。本文中の語句を用い、四十字以内で答えなさい。

問十 空欄⑩には、様子を表す語句（形容詞）が二字で入ります。ふさわしいと思う語句を考えて答えなさい。

問十一 空欄⑪には、「緑」色の具体的な表現が入ります。ふさわしいと思う具体的な表現を五文字程度で考えて答えなさい。

問十二 ——— 線部⑫ 「弓子さんは目を閉じ、小さくうなずいた」とありますが、このときの「弓子さん」の気持ちとして最もふさわしいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

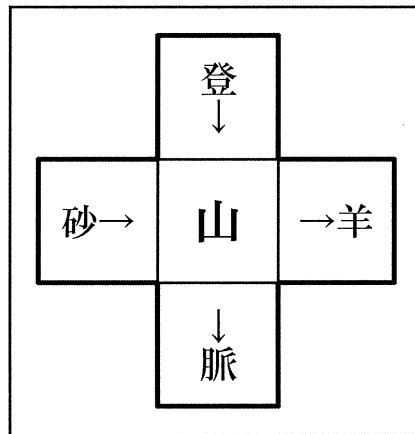
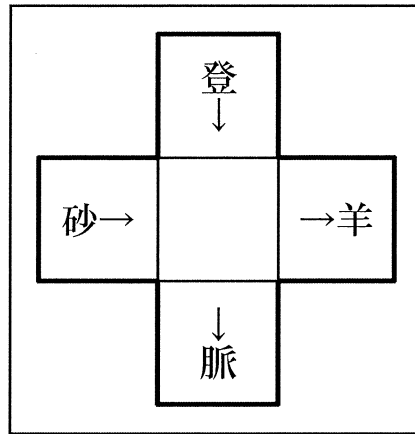
- ア、自分がこれから一つ選ぶ、自信を抱いている。
- イ、買ってくれる人の顔を想像して、喜びを感じている。
- ウ、できあがったものを想像して、期待と意欲を抱いている。
- エ、自分の仕事の先行きに対して、少し不安に思っている。

二 次の各問いに答えなさい。

A 漢字に関する問題

左の図は、真ん中のマスに一字あてはめると、それぞれ、矢印に従って二字熟語ができあがります。真ん中のマスに入る漢字は、四つ、すべて読み方が異なるようになっていきます。

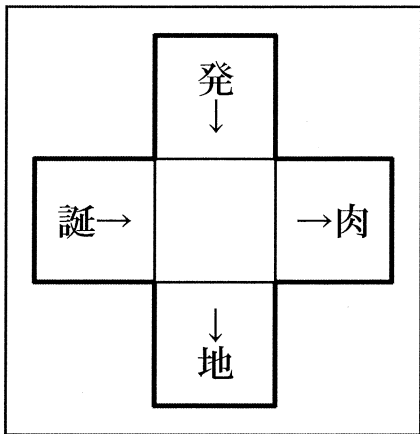
(例)



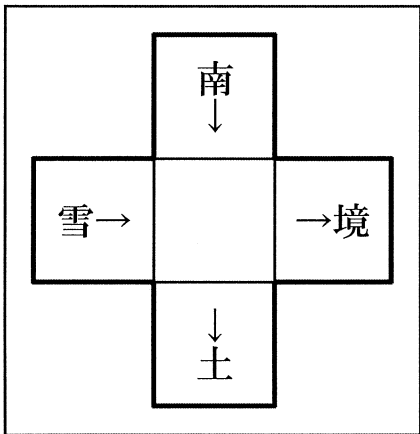
登山・とざん  
 山羊・やぎ  
 山脈・さんみやく  
 砂山・すなやま

問一 次の図①～⑤の真ん中のマスに入る漢字をそれぞれ答えなさい。また、四種類の読みがなの中で、もつとも文字数が少ないものをひらがなで答えなさい。(※ 例の場合の正解 Ⅱ (漢字) 山・(読みがな) やぎ)

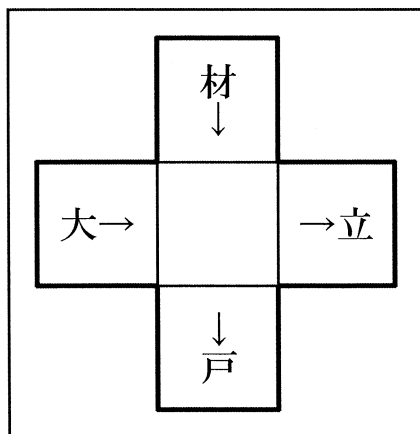
①



②



③



① Nothing ventured, nothing gained.

(訳) 痛みがなければ、得るものもない。

② Don't count your chickens before they hatch.

(訳) 卵からかえる前に、君のニワトリを数えてはいけない。

③ The early bird gets the worm.

(訳) 朝早い鳥は虫を得る。

④ A picture is worth 1000 words.

(訳) 1枚の写真は 1000 の言葉より価値がある。

⑤ Every country has its law.

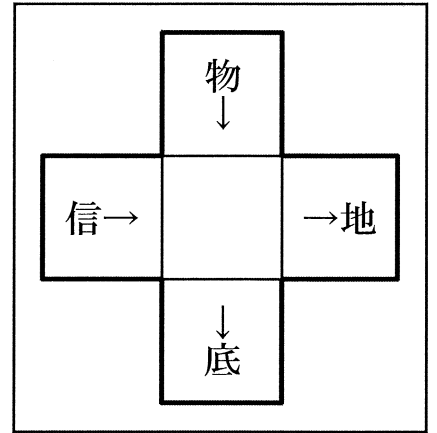
(訳) どの国にもそれぞれの法律がある。

ア、郷ごうに入いつては郷ごうに従したがえ  
 イ、百聞ひゃくもんは一見いちけんに如ごとかず  
 ウ、虎穴こけつに入いらずんば虎児こじを得えず  
 エ、早はや起おきは三さん文もんの得え  
 オ、捕とらぬぬ狸たぬきの皮算用かわざんよう

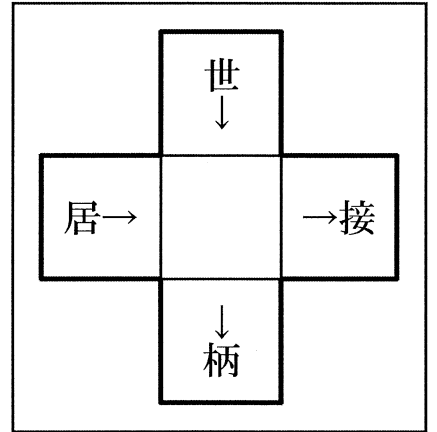
B ことわざ・慣用句に関する問題

問二 次の英語のことわざについて、その下に書かれた日本語訳を参考にして、次のア～オの中から同じ意味にあたる日本のことわざとして最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

④



⑤



C 言葉の使い方に関する問題

問三 次に挙げる二字熟語の上に、漢字一字を加え、「**【**」内の意味を表す三字熟語を答えなさい。  
なお、加える一字の漢字は①～⑤で同じものを何度用いても構いません。

- |   |     |    |                    |
|---|-----|----|--------------------|
| ① | ( ) | 成年 | 【ある個人が成人に達していない。】  |
| ② | ( ) | 表情 | 【感情が顔つきにあらわれない。】   |
| ③ | ( ) | 衛生 | 【清潔な状態でない、汚い。】     |
| ④ | ( ) | 暴力 | 【暴力を用いない、平和的である。】  |
| ⑤ | ( ) | 透明 | 【透明感がない、明確に見えづらい。】 |





